三里塚ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

動労千葉 乗務員分科第3回定期委員会開催

日刊 動労千葉
81.2.5
No. 650
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

乗務員分科会は81・3闘争の先頭に起つ

＊　動労千葉乗務員分科第三回定期委員会は、一月三〇～三一の両日、館山市・南房荘に委員・傍聴者五四名を結集して開催された。定期委員会は、八一・三ジェット燃料暫定貨車輸送延長阻止闘争を目前にひかえ、動労「本部」反動分子による、動労千葉破壊＝八一・三闘争つぶしを唯一の目的とした「千葉地本再建」デッチ上げ大会を粉砕する激闘の渦中で開催された。そして、一年間の三里塚・反合を軸とする闘いと、一・二七銚子支部デッチ上げ「再建」策動粉砕の勝利の総括を全体で確認し、むかえる一年間の闘う方針と、闘う新執行体制を確立し、成功裡のうちに終了した。

三五体制粉砕！八一・三に断固として起つ
―白石乗務員会長―

委員会は、深見執行委員の司会によって開会し、新小岩支部・松本委員を議長に選出、病のため、病床に伏している白石会長のメッセージが代読された。メッセージは「迫りくる国鉄三五万人体制合理化攻撃と真向うから対決し、労働者として正義に生きるため、八一・三闘争に断固として起ちあがろう」という決意が披れきされ、満場の拍手で確認された。

続いて来賓挨拶に移り、本部を代表して西森副委員長より、現在の日本の階級情勢、とりわけ日本労働運動総体の右翼的再編統一の動きに憂慮の念を表わし、そしてさらに鈴木反動内閣による改憲攻撃、軍事大国化への道を突き進む反動攻撃に対し、これに抗して闘う戦線を構築し、二度とあのいまわしい侵略戦争に労働者が加担しない体制を作り、同時に日本労働運動がいまだなし得ない真の労農連帯を構築するため、八一・三闘争をいかなる困難を乗りこえて闘おうとの力強い決意が表明された。

続いて議事に移り、一「動労「本部」反動分子・国鉄当局一体となった組織破壊攻撃粉砕の闘い、二三里塚空港反対・ジェット燃料貨車輸送阻止の闘い、三反合・運転保安確立・乗務員運用合理化粉砕の闘いを中心に総括し、あわせて八〇年度の闘う方針を次の通り決定した。

決定された乗務員分科の闘う方針

一、八一・三を中心とする闘い

この間あらゆる手段をもって三里塚闘争に敵対してきた「本部」反動分子は裏切り者土屋粋を使って「反対同盟と一線を画する方針」の総括を何らしないまま、「ジェット燃料貨車輸送延長計画に反対する決議」を採択し、当局・権力の先兵として八一・三に介入し、動労千葉の組織破壊、三里塚ジェット闘争の新たな敵対策動を開始している。したがって、あらゆる密集せる反動勢力と毅然と対決し、三里塚闘争とりわけ三月ジェット闘争に勝利するため、組織の総力をあげて闘う。

二国鉄三五万人体制粉砕・反合運転保安確立の闘い。

「再建基本構想」に基づく「三五万人体制」攻撃は、八五年までに七万四千人の要員削減をもって国鉄職員を三五万人にするというものであるが、三五万人体制下にあっては、これだけにとどまらず、さらに苛酷な要員合理化攻撃が必至である。したがってわれわれが、この間「反合・運転保安闘争」路線を確立し、闘ってきたことの正義性・優位性は鮮明であり、運転保安確立・木原線廃止反対等地域共闘の実現をはかり、さらに線区別ダイヤ作成基準の確立に向け取り組む。

三組織・教宣活動の強化。

一切の組織破壊攻撃を許さないため、学習会・職場集会など可能な限り取り組み、合せて各分科会との交流をはかることに努める。との方針を確認し、最後に新役員を選出し、委員会は成功裡に終了した。

一九八〇年度分科新役員

会長	西森 巌	千転（新）
副会長	大岩 定雄	新小岩（新）
事務長	安田 庄一	千転（再）
執行委員	深見 四郎	津田沼（再）
〃	相原 照二	成田（再）
〃	渡辺 和志夫	勝浦（新）
会計監査	長谷川 勇	木更津（再）
〃	井野 喜好	幕張（再）
〃	岡沢 一朗	津田沼（再）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！